



寄稿

5 上富田町町木 「ヤマモモ」を通じて 私たちができる ことをコツコツと



口熊野かみとんだ山桃会 代表

榎木美喜恵

「ヤマモモとは」

「ヤマモモ」を皆さんご存知でしょうか。この質問をすると「昔良く食べた。」と答える方と「桃？どんなものですか？」と全く知らないと答える方がいます。赤く、甘酸っぱい果実「ヤマモモ」。日本では関東以南の海岸沿いにみられます。

その「ヤマモモ」は、和歌山県の上富田町の町木に制定されています。町制30周年（昭和63年）に制定されたようです。理由は、町内、小中学校に沢山植えられていたからとのこと。ただ、現在は、上富田中学校にあった「ヤマモモ」も伐採されて無く、地域内でも実がなる時期に落ちた実で地面が汚れたり虫が寄ってきて嫌だという理由で伐採され少なくなってきました。

そんな「ヤマモモ」を町内では、山桃酒やシロップ、ジャムに加工してそれぞれの家庭で楽しまれているようです。又、塩漬けにしたものを湿布して打ち身などの炎症止めに使っているとも聞きました。

「ヤマモモ」は、幻の果実や赤い宝石と呼ばれています。収穫時期が初夏の2週間ほどと早く収穫後の傷みも早く市場にも中々出回らない果実だからです。因みに2021年の収穫期間は6月12日～26日、2022年は6月13日～26日でした。

種類は、森口、瑞光等、20種類ほどあります。私たちが収穫したり買取ったりしている実の種類は残念ながら判別することは難しいです。買取り先にも種類を尋ねますが、皆さん何かわからないとの返答ばかりです。将来的には、良い品種の「ヤマモモ」を扱えるように、県林業試験場等にご協力頂いてサンプルを集めたりしながら調査も同時に行なっています。

現在私たちが扱っている「ヤマモモ」は、この地域ではミズモモと呼ばれている大きな実です。原種は、直径1cmほどと小さく加工がしにくいのと、やに臭い独特の香りがするので使わないようにしています。もちろん、

原種も食べられますが。

ミズモモと呼ばれる大きな実は、昔自分用に食べるために植えられたものが多いと思われま
す。畑やお庭に1本あるお宅が多いからです。



私たちが買取りを始めた当初からジワジワ
と「ヤマモモ」を販売してくれる人が増えて
きています。皆さん、毎日朝から収穫してお
昼ごろまでに買取り場所に運ぶことができます。今
までただそこにあった「ヤマモモ」が少しで
も収入になり、毎日楽しいわと言いながらカ
ゴいっぱい「ヤマモモ」を持ってきます。
私たちが目指す地域の高齢者の小さな生業や
生き甲斐づくりに貢献できているのではない
かと考えます。

又、収穫や選別・洗浄作業もできるだけ、
時間が拘束されるお子さんのいる方や作業所
にお願いしています。それから、関係人口づ
くりにと積極的に県外の方にもお手伝いに来
て頂いています。今まで、神奈川県、愛知県
等遠くからお手伝いに来て「ヤマモモ」に初
めて触れてもらい、お互いに良い時間を過ご
しました。

「口熊野かみとんだ山桃会の発足経緯」

【設立目的】

口熊野かみとんだ山桃会では、町の木である
山桃をきっかけとして、上富田町の魅力や可能
性をもとに、あらゆる業種と連携・連動し、地
域住民と共に収益力・持続力のある町の仕組み
づくりをめざし、次の世代に誇りをもって残せ
る町づくりをしていく事を目的とする。

私が地域に興味を持ったのは、子供ができ、
子どもを取り巻く社会環境に対して思うところ
ができたからです。ここでは詳しく述べま
せんが、もっと子どもたちが自分らしく育つ
環境を大人が作っていいのではないかと
思い始めました。そしてただ思うだけでなく、
私もできることがあれば何か町のために手伝
おうと即行動に移しました。とりあえず、そ
の頃上富田町に着任した地域おこし協力隊や
観光コンシェルジュに何か手伝えることはあ
りませんかと会いに行きました。

それと同時に、ママ友数名にも一緒に活動
しないかと声をかけました。皆、何ができる
のかわからないけど協力しようと私も入れて5
名のママ友が集まりました。そして、知り合
いの商工会青年部の方や農家の方など数名に
も声をかけ、町民の有志が集まりました。

まずは、町の良いところや課題をあげるワー
クショップをしたり、地域の人のお話を聞い
たりして何をすれば良いのか話し合いを重ね
ました。その中で上富田町の町木が「ヤマモ
モ」だと知り、皆でこの「ヤマモモ」を使っ
た活動を始めようと決めました。2015年、こ
の時に、口熊野かみとんだ山桃会が発足しま
した。当初、会長にはその当時の上富田町商
工会の青年部長に兼任して頂きました。途中
で、仕事が多忙のため私にバトンタッチする
ことになりました。

設立当初は、現代の様に「ヤマモモ」の商
品を開発して販売までする想定ではなく、ま
ずは「ヤマモモ」を知り、地域の人にも知っ
てもらい、上富田町と共にPRしていく活動を
しました。具体的には、「ヤマモモ」の現状を
知るために、町内の農家さんと町会議員と一
緒に先進地である徳島県小松島市に視察に向
いました。

JA東とくしまを巡ね「ヤマモモ」の栽培方
法・出荷状況を確認し、生産者にもお話を伺
い栽培地も見学しました。そして、町内の「ヤ
マモモ」を扱うお土産店や菓子販売店等にも
寄りお話を伺いました。近年は、「ヤマモモ」

の栽培農家も減少しているとのこと。栽培農家さん曰く、「ヤマモモより椎茸の方がお金になる」と。2018年農林水産省データによると、日本の「ヤマモモ」生産量1位徳島県12.8t（シェア85.9%）、2位高知県1.6t（シェア10.7%）、3位兵庫県0.5t（シェア3.4t）となっています。この数字を見ても「ヤマモモ」の流通量が少ないとわかります。それに、2021年・2022年の私たちの収穫量が1.6tだった（自称全国2位）のを鑑みても全国でも「ヤマモモ」が商品作物の主流じゃないと推測できます。

後は、上富田町の道の駅で開催されているかみとん市に出店したり、ヤマモモ収穫&シロップづくり体験を開催したり、又、町内の団体に「ヤマモモ」を活用して協力を頂きながら「ヤマモモ」を知ってもらう取り組みを行いました。その中で、更にPR活動をするには何か「ヤマモモ」を使った商品がある方がよいということで、熊野やまももシロップが誕生しました。

「Kumano Berryとして」

熊野やまももシロップを市場に出すにあたり、この時に代表になっていた私が開業届を出し、屋号をKumano Berryとして本格的に市場参入を始めました。2018年同年10月に朝来駅構内にある口熊野かみとんだ観光案内所の委託運営も始まりました。この年に生産した熊野やまももシロップは、おはよう朝日です〜あなたの町を盛り上げ隊のコーナーで取り上げられ全てその時に使い切りました。本格的に一般に販売できたのは2019年からです。この商品は、2020年にプレミアム和歌山の認定も頂き、上富田町のふるさと納税の返礼品にもなっています。

現在、小売商品として熊野やまももシロップの他に熊野やまももジャム・熊野やまももドロップもあります。2022年には、実が欲しいという声に応えて厳選したヤマモモの実も数量限定で販売しました。ヤマモモの実は好評で全国から注文がきました。そして今年、ヤマモモ

のペーストも完成し、シロップと共に卸業にも力を入れていこうと計画しています。

商品の主な販売場所は、運営する観光案内所内や白浜空港売店・道の駅くちくまの・キイテラス売店等10店舗。サントリージャパニーズジン翠（SUI）ともコラボで和歌山県内の飲食店限定ですが熊野やまもも翠ジンソーダも提供されています。観光案内所ではテイクアウトで熊野やまももジュース等が飲めるようにし、「ヤマモモ」を知らない人にも気軽に試して頂いてます。

2022年末には、オーストラリアシドニーで開催された商談会にも出店し（海外初出店）、熊野やまももシロップが新しいフレーバーで



美味しいと好評でこれからの発展に期待が持てました。

「ヤマモモ」事業に力を注ぐのと同時に町内外へ「ヤマモモ」のPR活動、そして子どもたちへの活動も行っています。おかげさまで上富田町内小中学校の給食として「ヤマモモ」が提供されたり、上富田町商工会女性部がイベントでヤマモモのかき氷提供・紀州くちくまの熱中小学校第7期2回目授業にてヤマモモどら焼き作り等、町内の各団体が「ヤマモモ」を活用した取組みをし、近隣施設でも上富田氷と題して「ヤマモモ」を採用したりと、上富田町といえば「ヤマモモ」の認知が拡大してきています。

小学校の地域学習で「ヤマモモ」のお話をさせてもらえるようにもなりました。子どもたちも「ヤマモモ」からできる商品を考えてくれたり、夏休みの自由研究で「ヤマモモ」を調べる子がいたり、上富田中学校のパソコン部で「ひょうたんせんぱいのヤマモモ狩りゲーム」作成・子ども議会では、議題として「ヤマモモ」を生かしたイベント開催や商品開発を挙げ、町内の子どもたちの中でも、上富田町といえば「ヤマモモ」の認識が生まれていると感じます。

それから「ヤマモモ」事業での収益を口熊野かみとんだ観光案内所の運営にも還元しています。

案内所内では、おさがり会として、子ども



用品の寄付を受け、それを必要な人に無料・50円・100円でお譲りするコーナーがあり沢山の人がご利用頂いています。また、あっそdeえきなかまるしえを毎月第3木曜日13ー16時開催し毎回10店舗程出店し賑わっています。駅前から地域に元気を届けられるような活動をこれからも続けていきたいです。



「今後の展望」

現在取組んでいる令和4年度上富田町過疎地域集落ネットワーク圏形成支援事業「町の木やまももの活用による賑わい創出事業」の中で、スポーツのまち上富田町へお越し頂いた方へのお土産として元気をチャージするヤマモモの飲むゼリー「クマノベリージュレ」を開発中。そして、朝来駅前に地域内外の人が交流できる施設「つくとつなぐ」を整備しています。キッチンもありチャレンジキッチンとして利用したり、ワークショップや教室などやってみたいことをカタチにしていく一歩が踏み出せる場所であり、地域の人・起業したい人・観光客、様々な人が繋がり新しいものが作られる場所になればと考えています。私たちもこちらでヤマモモ寿司づくり体験や収穫体験に来た人たちとの交流の場などに活用していくつもりです。

「ヤマモモ」事業の基盤を作りながら、地域内外と繋がりをもち、地域に貢献できる活動をこれからも一步一步続けていき、これからの子どもたちが楽しそうな大人がいる町だな、僕も私も失敗を恐れず何かチャレンジしたいと思ってもらえ、次の世代にバトンタッチするまで元気に楽しく活動していこうと思います。